



東日本大震災復興事業関連発掘調査
多賀城市

山王遺跡 市川橋遺跡

古代都市を解き明かす

さんのう い せき いちかわばし 山王遺跡・市川橋遺跡

山王遺跡・市川橋遺跡は、多賀城市南宮・市川・浮島・高崎に所在し、七北田川左岸の自然堤防から後背湿地にかけて立地します。標高は2～3m程で現況は水田や宅地となっており、隣接する両遺跡を合わせると、その範囲は東西最大約2.3km、南北最大約1.7kmにも及びます。

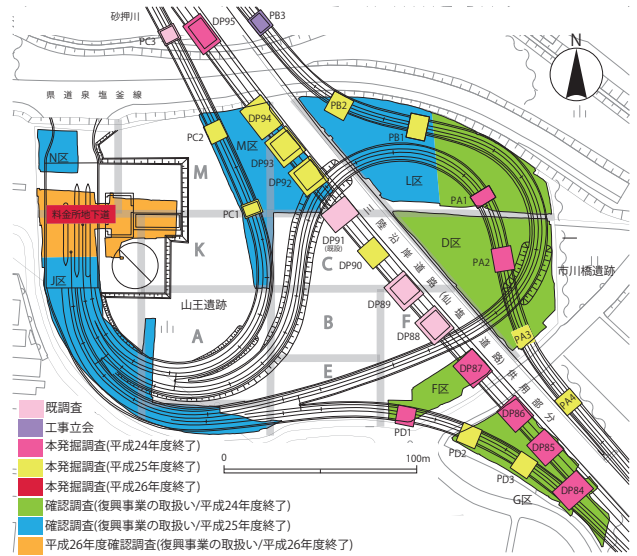
遺跡の北東側丘陵には、国の特別史跡に指定されている多賀城跡・多賀城廃寺跡が所在するほか、周辺では、高崎遺跡、西沢遺跡、新田遺跡など多数の遺跡がみつかっています。

これまで山王遺跡・市川橋遺跡では、道路建設やほ場整備等に伴い、宮城県教育委員会や多賀城市教育委員会が大規模な発掘調査を実施してきました。その結果、奈良・平安時代の役所である陸奥国府多賀城下の地方都市という遺跡の性格を把握するとともに、我が国でいち早くその実態を明らかにするという大きな成果を上げています。

本書は、両遺跡の北部中央に位置する八幡・伏石地区において、平成24～26年に

かけて宮城県教育委員会が実施した三陸沿岸道路仙塩道路建設工事に伴う発掘調査の成果を紹介するものです。

東日本大震災後の三陸沿岸道路建設事業は「復興道路」として早期完成を目指した事業であり、宮城県教育委員会としても発掘調査基準を弾力的に運用し、多くの自治体職員の応援も得て万全を期して調査に臨みました。調査終了後の平成28年には多賀城ICが完成し、供用が開始されています。



調査区の位置



2 調査区全景 (南西から)

遺跡の概要～集落から都市へ～

山王遺跡・市川橋遺跡は、これまでの調査により、古墳時代前期には水田が広がり、古墳時代から奈良時代には微高地に集落が営まれ、平安時代になると道路で整然と区画された都市が形成され、鎌倉・室町時代には屋敷が点在していたことが明らかになっています。特に奈良時代には、遺跡北東に隣接して律令国家の東北支配の拠点である陸奥国府多賀城が置かれ、平安時代になると、多賀城の政庁中軸線から南に延びる南北大路と外郭南辺に平行する東西大路を基準とした方格地割による約120m四方の碁盤目状の街並みが整備されました。こうした街並みは多賀城の

ほかに、当時は平城京や平安京、大宰府など、ごく限られた場所にしかありませんでした。多賀城下に広がる街並みの発掘調査は、古代の国家や東北の歴史を解明する上で、非常に多くの貴重な情報を提供してくれます。

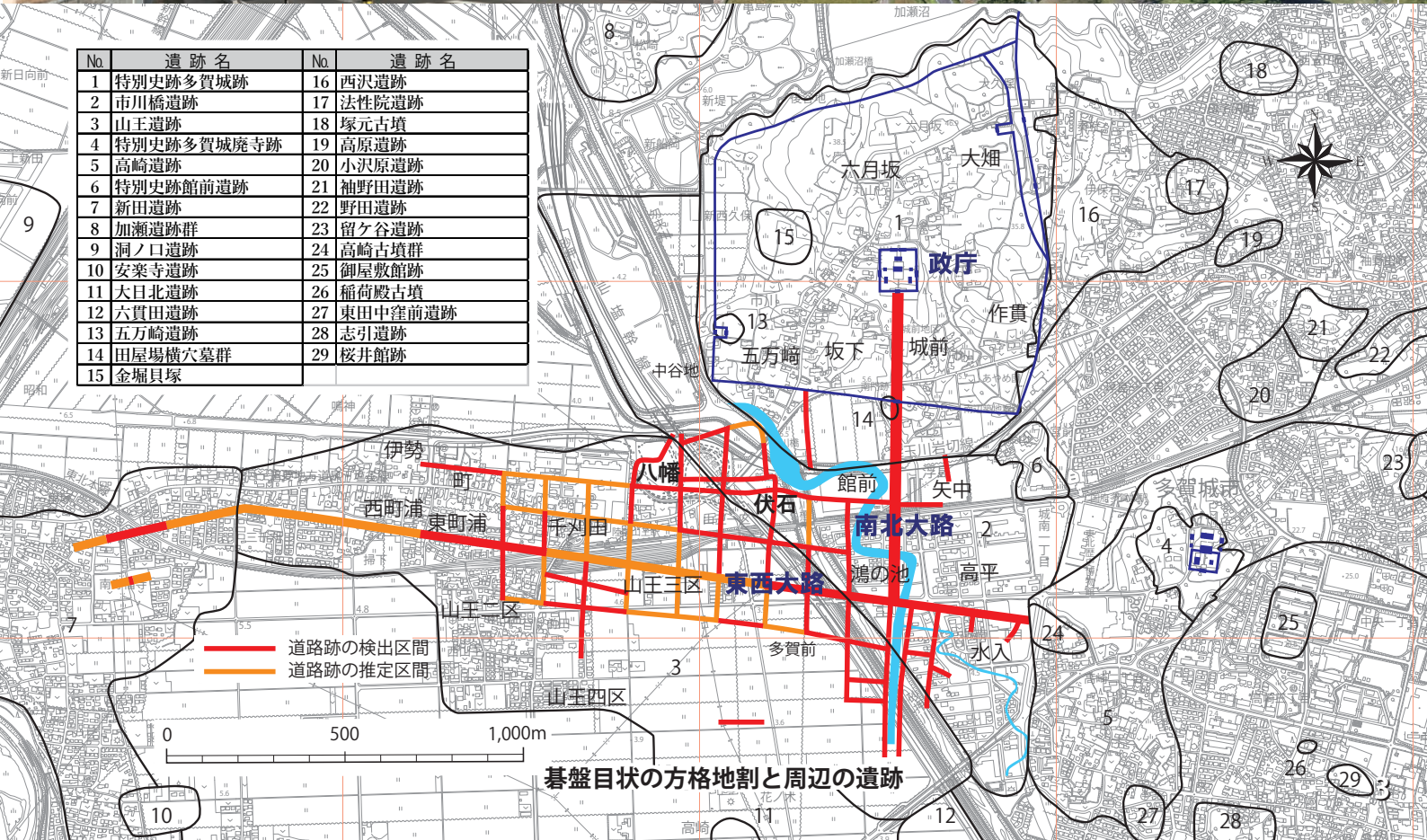
今回の調査でも、広い範囲で道路跡や掘立柱建物跡、竪穴建物跡、水田跡などが調査され、古墳時代から奈良時代にかけての集落や生産域の様子、平安時代の道路網の変遷や居住していた官人（役人）たちの暮らしぶりを明らかにすることができました。



完成した多賀城ⅠC



多賀城政庁跡（南から）



古墳時代

【前期 (4 世紀)】

水田跡がみつかりました。水田は直交する大畦畔を小畦畔で区画した1区画30m²以下の小区画水田です。耕作面が西から東へ徐々に下がっており、西から東に水を流していたと考えられます。

【中期 (5 世紀)】

河川や溝、材木堀によって区画されるムラ（集落）が営まれ、区画内部で竪穴建物跡28棟などがみつかりました。（数字は過去の調査も含む。以下同じ。）竪穴建物跡の中には鉄滓などが出土したことから、鍛冶工房と考えられるものもあります。過去には権威を示す鹿角製刀装具などの威信財も出土しており、こうした特徴から、このムラは地域の有力者（豪族）の居館を含んだ集落と考えられます。

【後期 (6 世紀末～7 世紀中頃)】

この時期、再び河川や溝、材木堀で区画されるムラが営まれます。調査では区画内部で竪穴建物跡165棟以上のほか、井戸跡、土坑などがみつかりました。河川跡からは土器だけでなく農具、漁撈具、祭祀具などが多量に出土しています。過去には、仏具である木製柄香炉も出土しており、また、他の集落と比べて、当時希少だった須恵器の出土量が突出して多いことなどから、このムラは七北田川下流域を統括した首長層が居住した拠点的な集落であったと考えられます。



鍛冶工房跡（古墳時代中期）



竪穴建物跡（古墳時代後期）



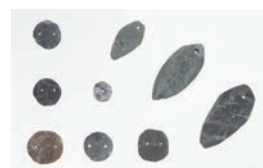
土器（古墳時代中期）



土器（古墳時代後期）



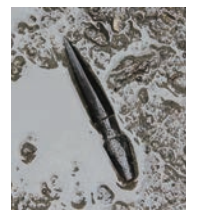
水田跡（古墳時代前期）



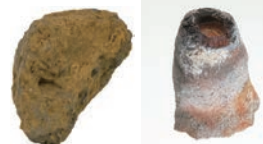
石製模造品（鏡・剣）



骨



離頭鉞
（鹿角製）



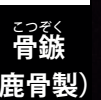
（占いに使った
鹿の肩甲骨）



鉄滓



土器転用羽口



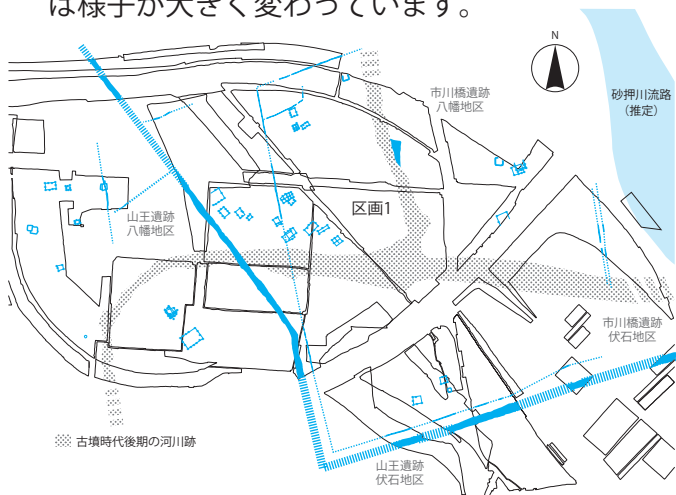
骨鉞
（鹿骨製）

あすか 飛鳥～奈良時代

【飛鳥～奈良時代前半

(7世紀後半～8世紀前半)

多賀城造宮前から直後にかけてのムラは、東西190m、南北235mほどの範囲が材木堀と溝で囲まれており、その内部で掘立柱建物跡32棟、竪穴建物跡6棟、井戸跡2基などがみつかりました。掘立柱建物が多くなり、主に竪穴建物で構成された古墳時代のムラとは様子が大きく変わっています。



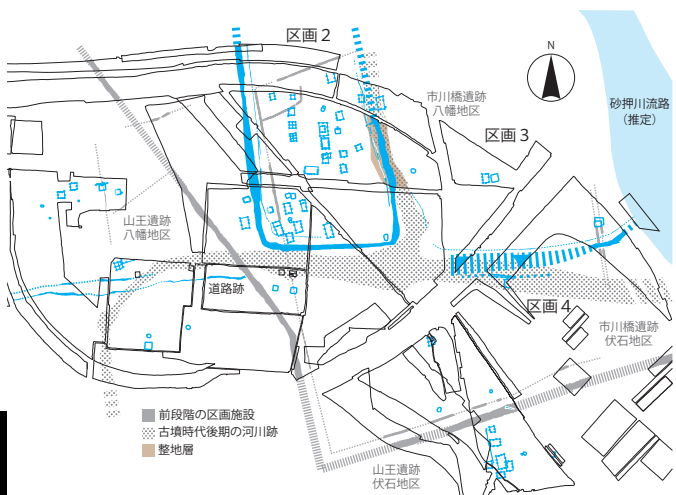
区画溝跡 (奈良時代前半)



区画溝跡からの土器出土状況

【奈良時代後半 (8世紀後半)

多賀城造宮後、東西方向の道路がつくられます。道路の北側は材木堀や溝によって、最大で南北120m以上、東西71mの範囲に区画されており、調査区全体では掘立柱建物跡43棟、竪穴建物跡17棟、井戸跡9基、畑跡6面などがみつかりました。また、遺構の分布状況から区画2の西側で北に折れて多賀城の外郭西門へ向かう道が想定され、その位置は後世の西5道路とほぼ重なります。



材木堀跡断面 (奈良時代前半)



掘立柱建物跡 (奈良時代後半)

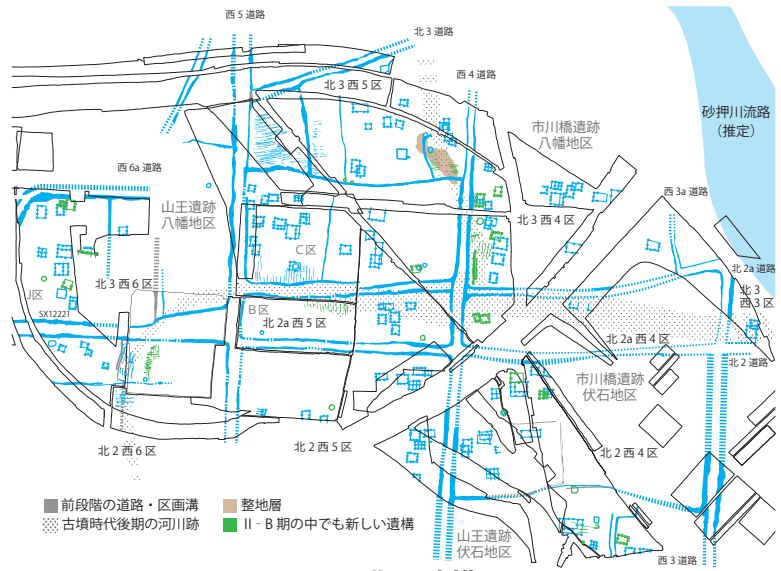
平安時代(道路・街区の整備)

平安時代になると、東西・南北方向の道路網が整備され、方格地割が施工されます。遺構はⅠ期：8世紀末～9世紀前葉、Ⅱ期：9世紀中葉～10世紀前半、Ⅲ期：10世紀後半の3時期に大別されます。Ⅱ期には道路面が砂で覆われる時期があり、これは869年の貞観津波に起因するものと考えられます。

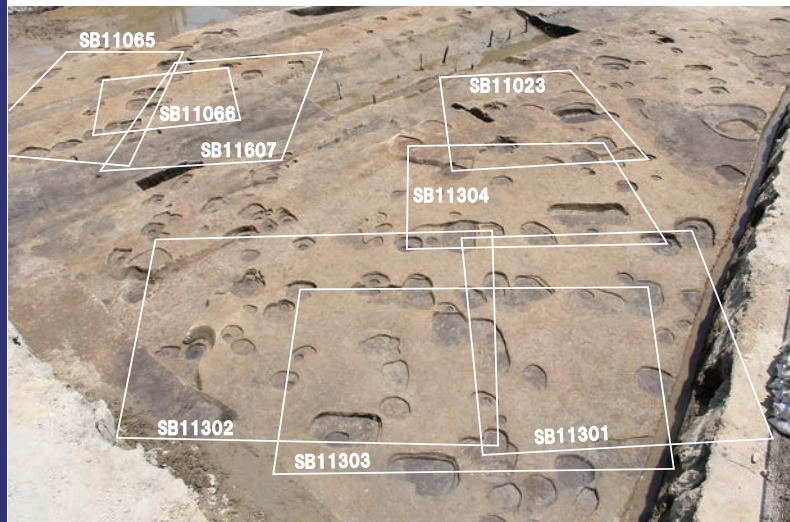
Ⅰ期：東西道路跡2条、南北道路跡2条、区画溝跡8条、掘立柱塀跡2条、掘立柱建物跡64棟、竪穴建物跡10棟、井戸跡9基などがみついています。

Ⅱ期：東西道路跡3条、南北道路跡5条、区画溝跡12条、掘立柱塀跡1条、掘立柱建物跡232棟、竪穴建物跡10棟、井戸跡17基、畑跡15面などがみつき、これらは道路の部分的な廃絶や建物方向などによって街区の変遷をたどるとA・B2時期に分けられます。また、北2西4区は大戸産須恵器の出土数が多いことや過去に「会津郡」と記された木簡が出土したことから、会津郡の出先機関が置かれた可能性が高いと考えられます。

Ⅲ期：東西道路跡1条、南北道路跡3条、区画溝跡1条、掘立柱建物跡4棟、井戸跡2基、畑跡1面などがみついています。道路の廃絶が進んで建物跡も減少します。居住域の一部は畑に変わっています。



Ⅱ B期の遺構



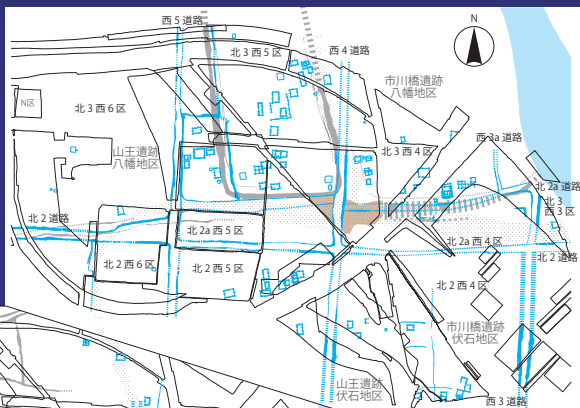
掘立柱建物跡



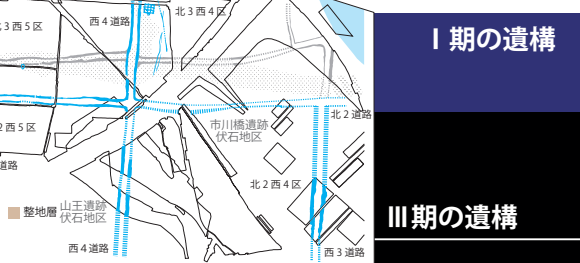
竪穴建物跡



井戸跡

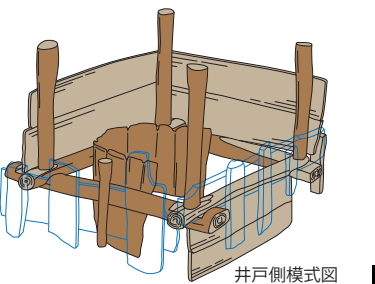
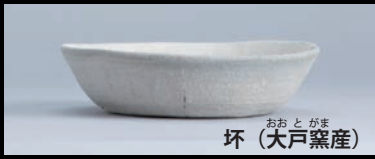


Ⅰ期の遺構



Ⅲ期の遺構

出土遺物



道路跡空撮 (D区北西から)



道路跡空撮 (M区北西から)



西4 道路跡 (L区北から)



西4 道路跡西側溝断面

発見された遺構や遺物は、野外調査の後、室内整理作業を経て分析され、記録として保存されます。
その成果は「発掘調査報告書」としてまとめられ、発掘調査が完了となります。



中学生職場体験



現地説明会



土器接合



調査風景



石膏復元

野外調査

室内整理作業



デジタル機器による測量



発掘調査報告書
[三分冊]



実測



全国からの派遣協力職員
の皆さん（平成25年度）



写真撮影



データのデジタル化

関連年表

およそ～年前	時代
30,000年前	旧石器時代
16,000年前	縄文時代
2,500年前	弥生時代
1,700年前	前期
	古墳時代
	後期
1,400年前	飛鳥時代
1,300年前	奈良時代
1,200年前	平安時代
800年前	鎌倉時代
700年前	室町時代
400年前	江戸時代

西暦	主なできごと
4世紀	大型の古墳が盛んにつくられる 県内では、雷神山古墳（名取市）、遠見塚古墳（仙台市）などがつくられる
5世紀	大仙陵古墳（仁徳天皇陵古墳）がつくられる
6世紀	聖徳太子が政治をおこなう
7世紀	645年 大化の改新
	658年 阿倍比羅夫が日本海岸の蝦夷の地に遠征する
	694年 藤原京に都を移す このころ郡山遺跡（仙台市）に多賀城以前の陸奥国府が置かれる
8世紀	710年 平城京に都を移す
	724年 多賀城が創建される
	794年 平安京に都を移す
	797年 坂上田村麻呂が征夷大將軍に任命される
9世紀	869年 陸奥国大地震（貞観地震）
	894年 遣唐使が中止される
10世紀	934年 陸奥国分寺七重塔が雷火で焼ける
	939年 平将門の乱

編集・発行 宮城県教育庁文化財課 令和2(2020)年3月

〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号 電話 022(211)3684

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/bunkazai/>



この冊子は1部あたり
36.2円で印刷していま
す。

この冊子は再生紙を使用
しています。